



内山さとこの活動報告



内山さとこのびのび歩む会 〒180-0012 武蔵野市緑町2-3 A7-501 080-3758-1057 Email-satochi@y8.dion.ne.jp

原子力から自然エネルギーへ 転換する行程表づくりを

今年5月20日から「暮らしと電力に関するアンケート」という調査を行いました。寄せられた回答からは、省エネルギーの暮らしを心がけ、自然エネルギーへの転換を望む市民が圧倒的であることがわかりました。

こうした市民の意見をもとに、内山さとこは、6月の本会議で「自治体からの脱原発を」進めるよう一般質問を行いました。

省エネ&創エネ型の暮らしへ

国内の全原子力発電所が停止し、国民が原子力発電に頼らない生活に安堵したのも束の間、7月1日、関西電力大飯原子力発電所が再起動しました。

今回の調査で、大飯原発を再稼働すべきでないという答えは239人中174人でした。その理由(複数回答)として、「安全対策が不安」130、「電力需要の予測が先」30、「福島原発事故の原因究明が先」88、「その他」38でした。その他の理由では、核廃棄物の処理の問題が最も多くあげられました。

また、この夏の節電については、「国全体で取り組む必要がある」という答えは、8割以上の194人でした。昨夏、実に98%が家庭や仕事など何らかの形で節電を心がけており、東京電力管内の節電効果は約2割となった実績か

らも、節電＝省エネルギー型の生活が浸透している結果となりました。

市民発の「エネルギー革命」を

7月1日から自然エネルギーの固定価格買い取り制度が始まりました。今後、自然エネルギー開発を進めるとともに、電力需給制度を見直し、脱原発への行程を具体的に示すことが求められます。

また、使用済み核燃料の処理に関しては、政府の新たな原子力政策の大綱を決める過程で、原発推進側のみで秘密会が開かれていた問題が発覚しました。さらに、原発関連の労働者の過酷な状況や、原発立地自治体における地域経済の再建など、解決すべき課題は山積しています。市民発の「エネルギー革命」の幕は、今、開かれたばかりです。

「暮らしと電力についてのアンケート」要旨

5月20日～6月30日回収分 239通

(20歳～100歳、男性79人、女性151人、不明9人)

①あなたは、昨夏、節電を心がけましたか？

「はい」234人 「いいえ」4人

②今夏の節電についてあなたの考えは？

A 個人の判断に任せる 43人 17%
B 国全体で取り組むべき 194人 81%
C 節電する考えはない 1人
D 特に考えていない 2人
E その他 2人

③国は安全性と必要性の観点から、大飯原発(福井県)の再稼働を進めようとしています。あなたの考えは？

A 再稼働すべき 19人 7%
B 再稼働すべきでない 174人 72%
C どちらともいえない 43人 18%

④あなたは、原子力から太陽光・風力・地熱など自然エネルギーによる発電に転換するべきと考えますか？

A 転換すべきでない 0人
B 転換すべき 206人 86%
C どちらともいえない 31人 3%

*「その他、数多くの意見をいただきました。協力ありがとうございました。」

「東京外かく環状道路に関する意見書」

全会一致で可決

武蔵野市議会には、コミュニティの分断、環境悪化を招くなどの課題のある「外かく環状道路」に関する特別委員会が設置されています。また、「外環における地上部街路の話し合いの会」で、市民、行政関係者などで、計画の廃止を含め今後のあり方について議論しているところです。

6月28日の市議会本会議で、内山さとこ以下7名の議員で議案が提出され、次の3項目を国と都に求める意見書が、全会一致で可決されました。

1、東京外かく環状道路については「対応の方針」の着実な履行を求めるとともに、正確な情報の公開と住民の不安を解消するよう努め、本格着工は慎重を期すこと。

2、外環ノ2については、現在継続している「外環における地上部街路の話し合いの会」の意見を尊重し、必要かつ適切な情報を提供しつつ、真摯に議論を深めるよう努めること。

3、今後も、武蔵野市及び市議会、市民が求める、正確な情報の公開と説明、必要に応じた協議を行い、不安や懸念の払しょくに努めること。
以上

その他、議員提出による4件の意見書が可決しました。うち3件は、賛否が分かれ、内山さとこは、尖閣諸島の実効的支配に関する意見書と、北朝鮮による日本人拉致被害者に関する意見書については、その内容から判断して反対しました。

市役所内のレイアウトが変わります

今年10月から、組織改正に伴い一部の担当が移動します。来庁の際には1階受付でご確認ください。

主な変更は次の通りです。

●部と課が再編されて、フロアが移動する課

<環境部>

- ・環境政策課
 - ・緑のまち推進課 (旧緑化環境センター)
 - ・下水道課
 - ・ゴミ総合対策課
- ⇒ **西棟2階** (旧ゴミ総合対策課フロア)
- ⇒ **クリーンセンター施設内**

<市民部> *市民課・保険課のフロアはそのまま

- ・市民活動推進課 (旧市民協働推進課)
 - ・生活経済課
 - ・交流事業課
- ⇒ **西棟7階**

●フロアはそのまま、部と課の名称が変わるもの

<総合政策部> *旧企画政策室が再編

- ・企画調整課
 - ・秘書広報課
- ⇒ **南棟6階**

「原発都民投票条例」成立ならず！

東京電力管内の原子力発電所利用の是非を問う原発都民投票。都内有権者32万3076人の署名を集めた直接請求活動が、初の都民投票として実現するか…という注目を集めました。残念ながら、6月20日の都議会本会議で、賛成少数で否決されました。

関西電力大飯原発の再稼働を決定する経過をめぐっても、逆に、国民の「脱原発」に向けた意志はさらに大きな輪となって広がっています。

7月16日には代々木公園で「さよなら原発10万人デモ」が行われます。

国の未来を、政治が変えないのなら、市民の力で変えていきましょう。



7月4日～6日、武蔵野市議会として、友好都市である鳥取県岩美町と広島県大崎上島町を訪問しました。旧岩美銅山坑道や竹原市街並み保存地区(左写真)など、貴重な歴史・文化について理解を深めました。

10月25日には、大崎上島町の中学生が武蔵野市を訪れ、コピス吉祥寺あきんどで「商人体験」として農産物の販売を行う予定です。友好都市の子どもたちを、どうぞ応援してください。